1995 京都大学教育学部教育心理学科卒業 Graduated from the Department Educational Psychology (BA), Kyoto University,

2000 川島テキスタイルスクール卒業

2006 文化庁新進芸術家海外研修制度派遣研修員として イギリスにて研修

> Fellowship of Japanese Government Program of Overseas Study for Upcoming Artists in UK.

Graduated from Kawashima Textile School

2007 ポーラ美術振興財団在外研修員としてイギリスにて研修 Overseas Study by Pola Art Foundation in UK.

作家のオフィシャルホームページ



注目作家紹介プログラム チャンネル14 吉本直子 いのちをうたう一衣服、痕跡、その祈り

会期:2023年10月28日(土)-11月26日(日) 会場: ギャラリー棟1階(アトリエ1・ホワイエ)

主催: 兵庫県立美術館

担当:遊免寛子

協賛:公益財団法人 伊藤文化財団 兵庫県立美術館[芸術の館友の会]

助成:公益財団法人 中内力コンベンション振興財団

NOMURA 野村財団

特別協力: **Co:3**

パンフレット

執筆:時里二郎

撮影:中野晴生 編集:游免實子

デザイン: 首藤成利(風の道 雨の匂 石の刻)

印刷:有限会社リーストワーク 発行:兵庫県立美術館©2023

Exhibition

Spotlight Artist Showcase Channel 14 Yoshimoto Naoko: Singing for Life -Clothes, Traces and

October 28-November 26, 2023

Venue: Atelier1, Foyer on the 1st floor of Gallery Wing Organaized by YUMEN Hiroko, Hyogo Prefectural Museum

With the sponsorship of Ito Cultural Foundation.

The membership association of HPMA

Supported by Tsutomu Nakauchi Foundation and Nomura Foundation

With special cooperation from Co3 Contemporary Dance Australia

NOMURA 野村財団 CO:3

Brochure

Publication on the occasion of the exhibition Texts by TOKISATO Jiro

Photo by NAKANO Haruo

Edited by YUMEN Hiroko

Designed by SHUTO Shigetoshi "Kazenomichi Amenonioi Ishinotoki"

Printed by Least Work Ltd.

Published by the Hyogo Prefectural Museum of Art Copyright@2023 by Hyogo Prefectural Museum of Art



YOSHIMOTO NAOKO

ARTIST SHOWCASE-CHANNEL 14 YOSHIMOTO NAOKO: SINGING FOR LIFE-CLOTHES. RACES AND PRAYER



〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1[HAT神戸内] TEL 078-262-1011 https://www.artm.pref.hvogo.jp/ 1-1-1 Wakinohama Kaigan-dori, Chuo-ku, Kobe City 651-0073, Japan

YOSHIMOTO NAOKO 吉本直子 いのちをうたう

兵庫県立美術館では、2011年より毎年「注目作家紹介プ ログラム〈チャンネル〉」を開催してきました。14回目となる 2023年度の「チャンネル」では、兵庫県加西市出身で西脇 市在住の現代美術家、吉本直子(1972-)をご紹介します。 人が着用した自い古着を使った立体作品で知られる吉本 の作品は、荘厳で儚く、見る者に生と死を感じさせます。

2020年、人間関係が希薄になり、誰もが死を身近に感じ た新型コロナウィルスの渦中、吉本はオーストラリアのパース を拠点とするダンスカンパニー「Co3コンテンポラリー・ダン ス・オーストラリアしと共に「ザ・バードメーカーズ・プロジェク ト」を立ち上げます。世界各地の人々が自身の古着で鳥を制 作し飛翔させるということのプロジェクトは、翌年開かれた パースフェスティバルでのダンス公演「アーカイブス・オブ・ ヒューマニティーの舞台でも披露されました。ダンサーたちがう ちひしがれ、倒れても団結して立ち上がっていく姿は、コロナ 禍で孤立したコミュニティが直面した危機と、それでも未来に 進もうとする人間の強靱さを伝えます。

人間が生きた記憶を留める数千枚もの古着の作品を通 して命に向き合い、風に立ち向かい大空に羽ばたく鳥の作 品を通して困難な状況の中にも決して失われない希望の光 を感じていただけたらと思います。

Since 2011, HPMA has been holding annual projects called "Channel" which introduce the works of prominent artists. This year, the 14th "Channel" will showcase the works of Ms. Yoshimoto

2023年10月28日(土)-11月26日(日) 開館時間:10時-18時 休館日:月曜日 会場:ギャラリー棟1階(アトリエ1・ホワイエ)

Naoko (1972-) who was born in Kasai-city Hyogo Prefecture and lives in Nishiwaki-city. Ms. Yoshimoto is known for her three-dimensional works and installations composed of various used white clothes. Her ephemeral and solemn pieces invoke the sense of life and death to the viewers.

In 2020, in the midst of COVID 19 pandemic when the sense of connections and human relationships were weakened and each of us were forced to face the reality of life and death, Ms Yoshimoto launched "The Bird Makers Project" in collaboration with the dance company "Co3 Contemporary Dance Australia" based in Perth, Australia. In this project, participants from all over the world contributed bird-shaped objects made by their own used clothes which were arranged in the manner to convey the images of birds soaring into the sky. These "Birds" were displayed on the stage during the Co3's performance titled "Archives of Humanity" in the following year at the Perth Festival.

Co3's dance performance demonstrated an environment where many people were falling down in despair. Yet, little by little they all came together and were able to rise up together in the end. Their performance communicated the inner strength of a human being to keep going forward and the strength of coming together in the backdrop of isolation and despair we collectively experienced during the crisis of the pandemic.

We hope through this exhibition of "Birds" in which each bird represents unique lives and memories of each person who contributed them, you will feel in your heart the "Light of Hope" that can never be extinguished even in desperate situations.

In closing, we would like to express our sincere gratitude to everyone involved for their cooperation and contributions in organizing this exhibition.





注目作家紹介プログラム チャンネル14

ARTIST SHOWCASE-CHANNEL 14

SINGING FOR LIFE-CLOTHES, TRACES AND PRAYER

SPOTLIGHT

YOSHIMOTO NAOKO:



作家ステイトメント

・展覧会タイトルは「いのちをうたう―衣服、痕跡、その祈り」 です。着用者それぞれの生きた時間、記憶、歴史を目には 明らかではない痕跡としてとどめた衣服。それを素材とし て制作した立体は、耳には聞こえない叫び、願い、祈りを 放っているように思えます。今を生きる無数の人々の生に 思いを馳せ、個々の祈りが共生の祈りとなって響く空間を 制作したいと思っています。

Artist Statement

The title of the exhibition is "Songs of Life -Clothes, Traces and Prayer", Clothes record the living time, memories and history of each wearer as traces that are not obvious to the eye. The three-dimensional works made from these materials seem to emit unheard cries, wishes and prayers. I would like to create a space where individual prayers resonate as a prayer of symbiosis, reflecting on the lives of countless people living in the present.

YOSHIMOTO NAOKO/吉本直子いのちをうたう/衣









作品リスト List of Works

The Book 2005 2 地の残像 2012年

1 本 2005年

Remains of the Land 2012

3 沈黙のことば 2012年 Word of Silence 2012

4 鼓動の庭 2012年 A Garden Echoing with Heartbeats 2012

5 白の棺 2021年 White Coffin 2021

6 白の棺 2021年 White Coffin 2021

吉本直子《鼓動の庭》(2012年)。兵庫県立美術館のギャラ は、むしろ抜け殻のほうにこそ、生命の痕跡がはっきりと現れる ロック状に固めたものが隙間なく整然と並べられている。

着替えをするとき、ごく偶に蛇の脱皮や蝉の抜け殻のことをとに思い当たるのである。 思う時がある。脱いだシャツや、もう用済みになった衣服のこと をあまり思い入れをもって考えたことがないのは、むしろそこに は、確かに自分の体臭や着ぐせや、付けた汚れの痕などがない まぜになった自らの履歴が編み込まれている。それらを処分す るとき、大切にしていた人形を無造作に捨てられないのと同じよ うに。しかし、こうやって、白いシャツだけに限定して、汚れを洗い 落とし、フリーズしたように固められると、生命の履歴が、ある抽 象性を帯びたものに見える。この抽象性、普遍性、言い換えれば 透明な無名性(アノニム)こそが、この立体の生命なのだと思う。

個の時間や個性や体臭などは洗い流され、生命の痕跡として の息遣いが抽出されている。それらは抽象性を帯びた埋葬をも 引き受けている。埋葬――死へと誘われるイメージを。ひとつひ とつのシャツはもとはそれぞれ所有者の私性を持っているが、 それらの私性が埋葬され、アノニムな生命の記憶の静かな量感 の詩情として蘇る。私たちが、蝉の抜け殻に魅入ってしまうの

リー棟の部屋の壁面いっぱいに、人が着用した白い古着をブ ものではないのかという思いがあるからだ。私たちも見えな い――あるいは気づかない脱皮を繰り返しながら生きているこ

イスラエルとパレスチナとの戦禍、ウクライナの惨状。私たち は報道を通して、毎日刻々と伝えられる死者の数が、この「鼓動 自分の生命の残滓のいくらかが付着しているということに気づ の庭 | の全面に敷き詰められたシャツのブロックをおのずと連想 いているからだ。日常のなかではそれ以上の思い入れはあえてしてしまう。死者の止まった息と命がフリーズされてそこにあ 断ち切られているが、立ち止まって考えると、着古した衣服に る。コロナの災禍も思い出される。それらは作品成立のずっと後 である。芸術が時代とは無縁でないのはわかっているが、芸術 は時代をこうやって映しうる。同時に、わたしたちはこの作品に たんに死のアナロジーを見るだけではない。《鼓動の庭》にも 《白の棺》にも、生命や息遣いのつながりを感じないだろうか。 祈りと言ってもいい。

> 吉本さんの作品の美質は、それらが、闇の深さをくぐり抜けた ある種の向日的な明るさ、それは祈りの光といっても、希望と いってもいいし、連帯といってもいいような未知な光を希求して やまないところにあるような気がする。アノニムな生命の記 がフリーズされた衣服の無数の塊が放散している死と牛のせめ ぎ合いを超えた不思議な静かさと明るさ。生命の記憶の痕跡で すら、こうして集まれば、時代を映すことができるのだ。





吉本直子+ Co

7.8 吉本直子と Co3 コンテンポラリー・ダンス・オーストラリアと市民との協働 吉本直子と Co3 コンテンポラリー・ダンス・オーストラリアとの協働 ザ・バード・メーカーズ・プロジェクト 2019~2023年 Collaborative production between YOSHIMOTO Naoko,

Co3 Contemporary Dance Australia and The public The Bird Makers Project 2019-2023

アーカイブズ・オブ・ヒューマニティ 2021年 Collaborative production between YOSHIMOTO Naoko and Co3 Contemporary Dance Australia Archives of Humanity 2021



